

・北原怜子さんの話

1935年杉並区立第六国民学校入学。妹さんの肇子さんを歌のおばさんで知られていた安西愛子・杉の子会に引率していて、童謡のピアノ伴奏に関心を持ち、林 憲男氏にピアノを習う。

- ・1944年15歳の時学徒動員で中島飛行機工場で旋盤工として昼夜三交替就業する。その時米機から機銃掃射をうけて旋盤が楯になり命拾いをした。
- ・17歳 桜蔭高卒業、昭和女子薬学専門学校（昭和薬科大学）入学
- ・1949年（20歳） 同校を卒業、薬剤師免許、高校科学教員免許取得、医者からの縁談、自分の進路を選択していた。その頃妹の肇子さん（現在 俵 肇子 社会福祉活動）光塩女子学院初等科入学。引率して行く、1年生は午前中につき、待っている間にシスターからピアノを習う。これを機にメルセス会修道院に出入りする。会の精神である“友のために命をすてること、これ以上の愛はない”この事に感動し、10月30日王たるキリストの祝日に洗礼をうける。洗礼名エリザベト、堅信マリア。エリザベトはハンガリー王の娘で、らい病患者の施設を設け、見捨てられている気の毒な人の為、自分自身で看病し燃え尽きるように30歳に届かぬうちに生涯を閉じた人、北原さんが霊名に選んだことも因縁を感じます。
- ・1950年9月（現台東区花川戸）姉の和子さんの嫁ぎ先である（株）高木商店(履物問屋)の隣地に転居
- ・11月 コンベンツアル聖フランシスコ修道会ゼノ・ゼブロスキー修道士と会う。蟻の街をはじめて訪問。蟻の街の子供たちの現状を知る。
- ・蟻の街とは
台東区隅田公園言問橋の一角に600坪のバタ屋「廃品回収業」の共同体です。運営の中心は小沢 求さん、松居桃樓さん、北原怜子さんの3人。40世帯百余名の共同体です。掘立小屋を建てて住まいを確保し人間らしい生活が出来るようにした。水道、電気、といれ、共同風呂、共同食堂を設置。
蟻の街の食堂は朝30円、昼40円、夜40円で1日110円でした。1/3は麦ごはんでした。（昭和29年頃駅弁100円、新聞外330円）
お風呂はドラム缶で時間を決めて入浴（子供達と大人達） 1人 2円
病気になると浅草寺病院に行く、蟻の街の証明書を提出すれば無料で診察。
診察料は蟻の会で負担。会員は毎月3円積立をしていた。
- ・蟻の街の子供達が海や山を見たことがないため、箱根旅行を計画
- ・赤い羽根共同募金に参加する。浅草教会のミサの中で千葉神父様が赤い羽根共同募金の話をされた。そのことを子供も達と話し合い行動する

目標額を一か月1万2千円とするが大変な事でした。夜9時まで働いても少ししかあつまらないと子供達もうんざりしていた。怜子さんはバタ車4台に大人一人を付き添ように説得しました。怜子さん自身も今まで以上に先頭に立ってごみ箱に手を肘まで突っ込み収集しました。このことが新聞紙上に記載され安井東京都知事が感銘され、月末までに1万2千円の子供たちのお金を直接知事室で手渡されるように招待されました。

知事からの知らせを受けた記者たちは写真を撮ったり記事を書こうとする記者であふれていたそうです。

“聖母マリアへの信心が怜子の人生の支えであり、子供達に教える祈りにも欠かせないものになっている。困った事態が起きるたびに子供達を聖堂に連れて行きロザリオの祈りを捧げる” 蟻の街のマリア “これが記者が書いた見出しでしたそうです。

- ・ 1960年 蟻の街が深川八号埋立地（現潮見教会）に移転。

粕谷神父様が主任司祭として赴任。カトリック枝川教会と名付けられる。通称は蟻の街教会と呼んでいました。また“ありんこ保育園”を開設。無認可の保育園でしたので資金つくりが大変でした。ボランティアの人達が来てくれました。

名古屋の松浦五郎司教様も学生時代に来ていただき、ピアノをひいて子供たちの面倒を見て下さいました。

- ・ 1977年コンスタント・ルイ神父様が着任されました。地域は韓国籍の方々が多く子供達が大きくなって外国籍の為指紋押捺をしなくてはいけない事にはんたいされ、地域の人達と共に指紋押捺拒否運動を積極的におこなわれました。
- ・ 1980年マザーテレサによる女子修道院“神の愛の宣教者の会”の日本支部が置かれ、生命の尊重の為未婚の母のための施設が作られました。

マザーの教会の講演会で若い人達がボランティアでカルカッタまで来てくださいますがこの教会の周りの橋の下にも路上生活をしている人がいますと言われ私の手を握り宜しくと言われました。それ以来路上生活者の為の活動をしています。

- ・ 1986年新聖堂献堂式 名称も潮見教会と改称。

信徒会館を作るとき白柳枢機卿様に私共信徒は蟻の街に見合ったふさわしい会館を要望しました。いろんな方々を受け入れ、宿泊できる場所として、現在の信徒会館ができあがりしました。

教会と町内会の繋がりは深い物がありました。夏祭りの時は神輿が教会の庭で休憩し、トイレを使用したり子供達にお菓子、スイカを振る舞いました。盆踊りの時も町会のご婦人会の方々が踊りを指導して下さい、毎年楽しく過ごしました。

- ・ 1991年大原神父様が着任されCTICの仕事を兼務されこの頃は120席の椅子が満席になり椅子を購入するまでに信徒も増えました。

- ・外側志津子さんと知り合いになり、北原さんの事を後世に残したいので一緒に運動を続けましょうと約束いたしました。外側さんは北原さんとアリの街で最後の6年間を一緒に過ごされた方です。唯一の生き証人です。現在静岡で社旗福祉活動をされていて84歳です。静岡ではいろんな活動をされていて県から功労賞を受賞されています。また、平成19年には藍綬厚生保護功績で叙勲されています。その叙勲新聞には大きく「蟻の町のマリア」とのであいが転機として北原さんの写真とご自分の活動が記載されています。

- ・現在東京教区では北原さんについての列聖運動ははっきりしていないようですがコンベンツアル修道会が運動をされています。
- ・上野浅草の有志の方々がゼノ修道士・北原怜子さんの事を後世にのこそうとして3年前から写真展を開催したり蟻の町のマリアの公演をしたりして、ポーランド大使館・ローマ法王庁の大使をお招きしたりして積極的に動いています。私も実行委員のメンバーです。

本日は映像を見られて尊者エリザベト・マリア北原怜子さんがどのような生き方をされたかお分かりになられたと思います。

- ・蟻の街は一人一人が蟻のように力を出し合い、助け合い共同生活をしてきた共同体の姿です。修道会、教区に頼らず自分たちで創った他に類のない唯一の教会です。初代教会の姿を思いうかべます。

高幡教会創立50周年の記念ポスターに記載されている“私たちは生きた石である。そのためイエスの愛にとどまりましょう”共同体のありかたが信者の姿であり、愛に包まれた共同体の姿です。まさに北原さんと蟻の街の人達と築いた教会だと思います。私達も困難に直面した時には北原怜子さんがマリア様に寄りすがったように祈りましょう。本日は私の纏まりのないつたない話をお聞き下さいましてありがとうございました。